

AWS対応のゲートウェイ型IPSを
短期間で導入、運用開始

不動産・住宅情報サイト「HOME'S」の AWSクラウド移転を支えた、アズジェントの 「セキュリティ・プラス マネージドセキュリティサービス」 株式会社ネクスト

国内最大規模の不動産・住宅情報サイト「HOME'S (ホームズ)」を運営するネクスト社では、これまでオンプレミスで運用してきたWebシステムを、段階的にAmazon Web Servicesクラウドへと移行中だ。そのセキュリティを包括的に守るのが、アズジェントの「セキュリティ・プラス マネージドセキュリティサービス」と、チェック・ポイント・ソフトウェア・テクノロジーズの仮想アプライアンスである。

住まい探しの総合サイトを AWSクラウドに「お引っ越し」

インターネットに特化し、新たな住まい探しを支援する不動産・住宅情報サイト「HOME'S」。全国約530万件の不動産情報が登録されており、PCだけでなくスマートフォンやタブレット、フィーチャーフォンなど多様な端末から、「このくらいの値段で、駅から徒歩5分くらい」「リフォーム済みのバリアフリーの家を」など、「自分にぴったりの住まいを探したい」ユーザーの細かなニーズに合わせた検索ができる。

進学、就職……多くの人が新生活を始める春を控え、毎年1～3月は新たな住まい探しのピーク期となる。当然、HOME'Sにとってもこの時期は繁忙期で、トラフィックは平常時の1.5倍にもなる。そんな中でも、ユーザーが快適にサービスを利用できる環境の整備を目指して、HOME'Sを運営するネクスト社では、オンプレミスで運用してきたシステムをAmazon Web Services (AWS) クラウドに「引っ越し」している最中だ。

このAWSとオンプレミスのハイブリッド環境を支え、セキュアな環境を実現しているのが、チェック・ポイント・ソフトウェア・テクノロジーズの仮想セキュリティアプライアンス「Check Point Virtual Appliance for AWS」と、アズジェントの「セキュリティ・プラス マネージドセキュリティサービス (セキュリティ・プラス MSS)」である。

事業の成長でトラフィックが急増 投資の最適化を狙いクラウド移行を検討

これまでHOME'Sは、ファイアウォールやIPS (不正侵入防止システム) の背後にフロントのWebサーバー群があり、さらにその裏側でデータベースやAPIといった各種サーバー群がつながるという、典型的なシステム構成で提供されてきた。サービスの成長に伴ってシステム規模は拡大し続けており、現在は物理サーバー台数で約200台に上る。

HOME'Sの運用に当たる関野高志氏は、「繁忙期のトラフィックに合わせて、どうしてもインフラは過剰投資になってしまいます」と語る。インフラの規模は、毎年1～3月のピークトラフィックを基準として、さらに余裕を持たせておく必要がある。だが、ピーク時のトラフィックは昨年対比150%前後の勢いで毎年伸びており、しかも事前の予測は難しい。「そこで、クラウドを利用して、リソースをストレッチできるようにしたいと考えていました」(関野氏)。

一方で、HOME'Sの新サービス開発を手がける三木鉄哉氏には、クラウドを活用して新サービスのリードタイムを短縮したいという思いがあった。「サービスを開発するプログラマーがクラウドの扱い方を覚えれば、新たな開発プロジェクトを進める際に、インフラの担当者がいちいち調整に入る必要がなくなります。サービスの質が向上するだけでなく、リリースのスピードも上がるだろうという期待がありました」(三木氏)。

会社概要

株式会社ネクスト

<http://www.next-group.jp/>

事業：不動産情報サービス事業 (不動産・住宅情報サイト「HOME'S」の運営)、その他情報サービス事業 (保険ショップ検索・予約サイト「MONEYMO」、家具・インテリアECサイト「HOME'S Style Market」の運営)
従業員数：642名 (2014年9月30日現在)



HOME'Sのブランドキャラクター「ホームズくん」は、ツイッター (@HOMES_kun) でも住まい探しをお手伝い中



ネクスト社 HOME'S 事業本部 プロダクト開発部
技術基盤ユニット 基盤グループ長
関野 高志 氏



ネクスト社 HOME'S 事業本部 プロダクト開発部
技術基盤ユニット プラットフォームグループ
三木 鉄哉 氏

こうして、ネクスト社では2年ほど前からAWSへの移行を検討し始めた。しかし、当時はまだ前例が少なく、社内にも「本当にクラウドで行けるのか?」「セキュリティは大丈夫なのか?」といった疑問の声があった。また、従量課金制になるため、運用コストの見積もりも難しかった。結局、この時点では全面的な移行には至らず、まずは開発環境だけでAWSの利用を開始した。

繁忙期にレスポンス遅延が発生！ 本格的なクラウド移行決断と新たな問題

だが、転機はすぐ翌年にやってきた。2014年1月の繁忙期を迎えたとき、オンプレミスに導入しているIPSのパフォーマンスがトラフィックの増加に追いつかず、サービスのレスポンスに遅延が生じる事態が発生したのだ。

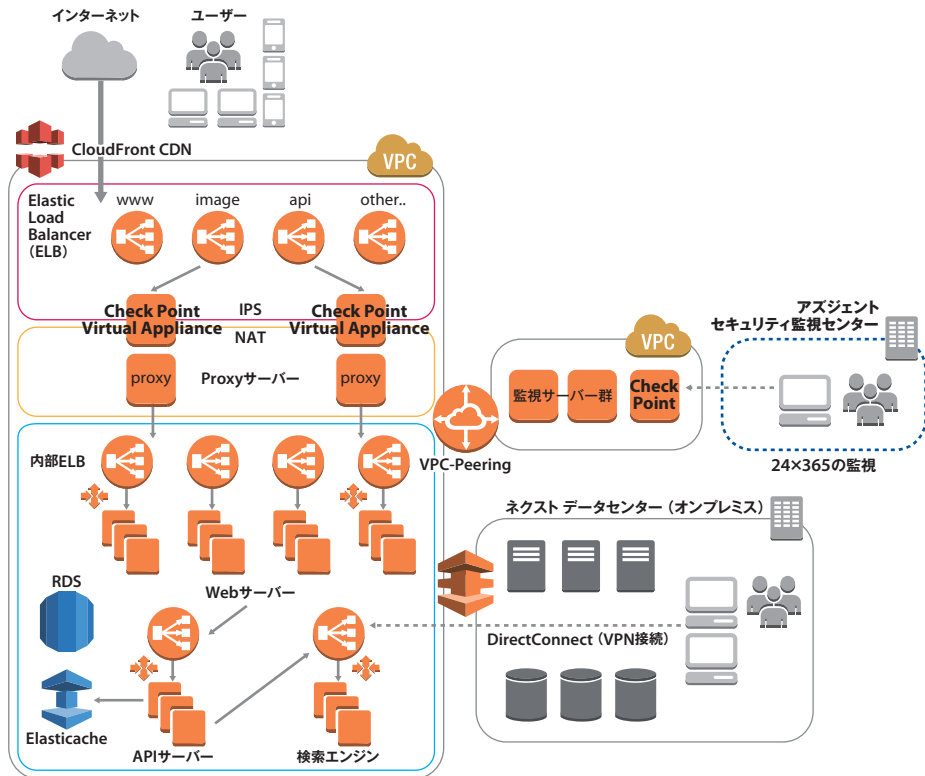
「一時的な対処策として、セキュリティ的に問題のなさそうな画像配信サーバーをAWSに移して問題を回避しましたが、この先どうするのか、根本的に考え直さなくてはいけなくなりました。ただでさえトラフィックは増加を続けており、しかも近年は繁忙期が過ぎた後のトラフィックの落ち込みも小さくなっています。今回は何とかさばいたけれど、そのうち大きなトラブルにもなりかねない。そこで、2014年7月のカットオーバーをめどとして、段階的にサーバーをAWSへと移行する方針を決定しました。開発環境でAWSを利用したことにより運用コストがある程度把握できたこと、他社におけるAWS利用実績が増えてきたことによる安心感も、決定のための後押しとなっています」(三木氏)。

移行プロジェクトは2014年2月にスタートしたが、ここで頭を悩ませたのが、移行後のサーバーセキュリティをどう保護するかだった。

「AWSで実績のあるIPS/WAFを検討したのですが、ゲートウェイ型ではない、ホストごとにインストールするタイプ(ホスト型)が主流でした。HOME'Sの場合、AWSとオンプレミスをVPNでつなぐハイブリッド環境になっているため、ホスト型を選ぶとオンプレミスにあるサーバーにも入れなければなりません。一部のサーバーのOSバージョンが古いこと、またライセンスコストが高くつくことを考えると、ホスト型という選択はありませんでした」(関野氏)

AWS+オンプレミスの環境を守る ゲートウェイ型IPSという選択肢

HOME'Sのハイブリッド環境を、AWS上のゲートウェイで包括的に守る方法は、しかも半年足らずの限られた期間で——。そんな時に出会ったのが、チェック・ポイントの仮想セキュリティアプライアンスと、同製品をサポートするアズジェントのマネージドセキュリティサービスだった。



AWSクラウドへ移行中のネクスト社「HOME'S」のサイト構成

Check Point Virtual Appliance for AWSは、その名が示すとおり、幅広いセキュリティ機能をAWS環境上で実現する仮想アプライアンスだ。チェック・ポイントの代理店として多くの導入実績を持つアズジェントでは、クラウド環境における同製品の導入ノウハウも蓄積している。ネクスト社からの相談を受けた際にも、「AWSのAvailability Zone (AZ) ごとに配置する必要がある」「ロードバランサ (ELB) との連携に工夫が必要」といった、AWS環境特有の課題をすぐに整理して提示した。

三木氏は、こうした具体的なアドバイスのおかげで、「経路設計の変更など、ちょっとがんばって手を動かせば何とかかなりそうだ」という感触を持つことができたと言った。これで、チェック・ポイントのゲートウェイ型IPSを導入することが決まった。

その後の動きは早かった。導入に際しては、アズジェントのコンサルティングサービスが役に立ったという。「インスタンスの構築作業や細かいパラメータの書き方など、実際にエンジニアに来てもらって、親身に対応してもらいました」(関野氏)。

より良いサービス開発に全力を注ぐため フルマネージドサービスで“お任せ”

チェック・ポイントの導入に合わせ、ネクスト社ではアズジェントのセキュリティ・プラス MSSも採用している。「実運用開始後もノートラブル

で、シグネチャの更新なども含め、ほぼお任せという状態です」と関野氏は語る。

実は、ネクスト社がAWSのセキュリティ対策を模索する中で、もう1つの条件としていたのが「フルマネージドで運用できること」だった。

「24時間365日、自社でセキュリティ状況を監視するとすると、専門チームを作ってそれなりの数の人員を配置しなければなりません。しかし、限られた人材リソースは、サービス開発などほかにも注力したい分野に割り当てたい。ですから、フルマネージドで運用をお任せする必要があったのです」(三木氏)

アズジェントのセキュリティ・プラス MSSを採用した結果、“本業”であるサービス開発にいっそう注力できるだけでなく、「古いサーバーのOSアップデートなど、これまで手がつけられなかったシステムセキュリティの部分に注力できるようになりました」と、三木氏はそのメリットを語る。

ネクスト社では2016年1月を目標に、まだオンプレミスに残っているファイルサーバーやデータベースサーバーなども含め、全システムをAWS上に移行する計画だ。同時に、アプリケーションのマイクロサービス化にも取り組み、サービス全体の耐障害性を高めていく方針だという。

「こうした新しいことに取り組めるようになったのも、アズジェントさんの協力あってこそ」と三木氏と関野氏は口を揃える。これからも、ユーザーが24時間いつでも快適に、そして安全に、住まい探しができる環境の提供に尽力し続ける。

問い合わせ先

One Step Ahead of The Game
Asgent
アズジェント

株式会社アズジェント

〒104-0044 東京都中央区明石町6-4
TEL: 03-6853-7402 E-mail: info@asgent.co.jp
<http://www.asgent.co.jp>

※ 記載内容は2015年3月時点のものです。

※ 記載されている社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。

※ Amazon Web Services、アマゾンウェブサービス、AWS、およびAmazon Web Servicesロゴは、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。